

■小学校、中学校においては、以下のように「学習指導計画作成上の留意点」を示す。

## 学習指導計画作成上の留意点

■高等学校においては、文部科学省通知（29文科初第536号平成29年7月7日付け「小学校及び中学校の学習指導要領等に関する移行措置並びに移行期間中における学習指導等について（通知）」及び30文科初第727号「高等学校学習指導要領の改訂に伴う移行措置並びに移行期間中における学習指導等について（通知）」を受け、「2019年度 学校体育必修」P30,31を参考に示す。

(第〇学年〇組) 体育科 学習指導案  
↑  
保健体育科

※ 小学校の場合の「学年・学級名」記入位置

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時 活動場所

※ 中・高等学校の場合の「学年・学級名」記入位置 → (第〇学年〇組) 男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名  
指 導 者

1 単 元 名……主として指導する種目や運動の内容をまとめたものを記入する。

- ※ 小学校の場合 ・教材名（領域の内容名）
- ※ 中・高等学校の場合 ・領域選択の場合「選択させる領域名」（自分が担当する運動種目等）  
・運動種目等選択の場合「領域名」（自分が担当する運動種目等）

2 運動の特性……具体的な単元の目標と内容を導き出す手がかりとする。

### (1) 一般的特性

欲求の充足あるいは必要を充足する機能を中心に捉え、児童生徒にとっての種目の一般的な魅力（機能的特性）を明らかにする。

### (2) 児童生徒から見た特性

児童生徒の実態を踏まえ、学習する児童生徒にとって、どこが楽しいか、遠ざける要因は何か、どんな楽しみ方ができる運動かを明らかにする。

3 児童生徒の実態

- (1) 知識及び技能
- (2) 思考力、判断力、表現力等
- (3) 学びに向かう力、人間性等

この種目（運動）にかかわる、学級の児童生徒の実態（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等）を主に明らかにする。また、授業を計画する上で必要な意識調査や生活習慣のアンケート結果、運動能力や技能に関する調査結果、体力課題解決研究指定校は体力の実態を示す。

4 教師の指導観

- (1) 知識及び技能
- (2) 思考力、判断力、表現力等
- (3) 学びに向かう力、人間性等

「運動の特性」と「児童生徒の実態」を踏まえ、一人一人の児童生徒が運動の楽しさや喜びを味わえるようにするために、どこに重点を置き、どのように指導していこうとするのかを具体的に明らかにする。

5 単元の目標

単元の学習を通して、学習指導要領に示されている目標及び内容〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕〔学びに向かう力、人間性等〕から児童生徒をどのように変容させるか、目指していることを簡条書きで示す。

※ 文末は、「～できるようにする。」と表記する

6 単元の評価規準

国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」、 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」、 「埼玉県小学校・中学校教育課程指導・評価資料」等を参考に各学校で作成した単元の評価規準を示す。（三つの観点【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の「おおむね満足できる」状況を評価規準として示す）

(例)		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	単元の評価規準	①②③④	①②	①②③

7 単元の計画 ※ 書き方の詳細は、各校種の学習指導案例を参照。

### (1) 領域の取り上げ方

(例)	運動 / 学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
	走・跳の運動、陸上運動	20時間	20時間	16時間	16時間

### (2) 領域の内容（運動種目）と目指す動き

(例)	学年	内容	目指す動き
	5	ハードル走	40mハードル走で、第1ハードルを決めた足で踏み切って走り越えること
	6	ハードル走	40mハードル走で、自分に合ったインターバルで、3歩または5歩のリズムで走り越えること

※ 中・高等学校は3年間、小学校は2年間又は4年間で示す。（6年間でも可）

**(3) 指導と評価の計画 (8時間扱い) 本時は○印 4/8時**

時間	1	2	3	④	5	6	7	8
ねらい	※ 単元の明確なゴール像(目標や内容「何を学ぶか」、資質・能力「何ができるようになるか」など)を明確にした上で、各時間のねらいを設定し、記入する。							
指導内容	※ 各時間のねらいに沿った指導内容や、単元のゴール像に向けて各時間で必要となる指導内容について記入する。							
学習過程	0分 オリエンテーション	(例) 1 集合、挨拶、健康観察 2 前時の振り返り 3 準備運動 4 学習の場づくり、用具の準備 5 感覚つくりの運動 6 本時のねらいや学習内容等の確認 7 課題解決 8 成果の確認(記録会、発表会、ゲーム等) 9 自己評価、相互評価 10 整理運動、片付け 11 学習の振り返りとまとめ	※ 授業で教えるべきことを明記する。 ・技能だけでなく、他の指導内容についても明記する。 ・「共通に指導すること」と「児童生徒が自主的・主体的に学ぶこと」を明確にする。					
評価計画	知・技	①②	①③				②	③
	思・判・表 態	②③		①		①	③	
	方法	観察	観察、カード	観察	観察、カード	観察、カード	観察、カード	観察、カード
	場面	6, 7	7, 8, 9	6, 7, 8	5, 6, 7, 8	6, 7, 8, 11	7, 8, 9	7, 8

※ 評価計画には、「6 単元の評価規準」の番号と評価方法を記す。また、評価する場面の番号も記す。

※ ここの評価は、1時間毎の「ねらい」に正対した振り返りとまとめを行い、それを受けて次時につなげていく評価である。1時間の「学習評価の観点」は、原則一つとし、適切に評価できるようにする。また、努力を要する状況の児童生徒に具体的な手立てを講じるとともに、必要に応じて、単元終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切である。

**8 本時の学習と指導 (4/8時)**

(1) **ねらい**……単元の目標に即して、本時で児童生徒に身に付けさせたいことを明確にし、どんな活動ができればよいか、学習の進展状況を踏まえて具体的に示す。文末は「～できるようにする。」と表記する。  
※文の後に付ける〈 〉は育成を目指す資質・能力の三つの柱から該当するものを表記する(今年度は小中学校のみ)

(2) **準備**……本時に使用する教具、用具、資料等を示す。

(3) **展開**……導入から展開・整理へと、児童生徒の楽しさを追求する活動を中心に書く。その楽しさを「本時のねらいの達成」という確かなものにするために、教師が個人・グループやチーム・全体等に何を指導し、どのような点に留意していくかをより具体的に明確に示す。

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 (○分)	(例) 1 集合、挨拶、健康観察 2 前時の振り返り 3 準備運動 4 学習の場づくり、用具の準備	ねらいと評価規準を正対させる
	※ 本時のねらい、活動の見通し、準備等を示す。 ・前時の学習を振り返り、学習ノートの記述等から本時の学習の意欲付けを図る。	※ 本時の学習を円滑に進めるための留意事項を具体的に示す。 ・健康上注意を要する児童生徒の健康状況と指導上の留意事項 ・準備運動で特に注意を要する運動とそのやり方、配慮する児童生徒、学習集団等の特徴等
展開 (○分)	(例) 5 感覚つくりの運動 6 本時のねらいや学習内容等の確認 7 課題解決 8 成果の確認 ・記録会、発表会等 9 自己評価、相互評価	※ 全ての児童生徒に指導する内容を明確にし、指導上の留意点を示す。 ※ 一人一人の児童生徒が、本時のねらいを達成できるように、教師が指導、助言、配慮することを具体的に示す。 ・各自(グループやチーム)の課題の持ちせ方、確認の仕方、解決の仕方、修正の仕方 ・全員(グループやチーム、個人)に、気付けし理解させるべきこと、指導すべきこと ・役割や活動の仕方について、各場面で指導するポイント ・活動中の個人、グループやチームに対する働きかけについての留意点 ・技能のつまづきを予想し、それに対する指導のポイント
	※ 児童生徒が、本時のねらいの達成のために、各自(グループやチーム)の課題の解決に向け、どのように学習活動を展開するかを、図や絵等も入れ具体的に示す。	◆単元の評価規準【観点】 「7 (3) の評価計画」に基づき、「6 単元の評価規準」で示したものをそのまま記す。  指導と評価が一体となるように、 「△努力を要すると判断される状況(C)の児童生徒への指導の手立て」 「◎十分満足できると判断される状況(A)の児童生徒の具体的な姿」 を示し、評価を次の指導に生かす。
整理 (○分)	(例) 10 整理運動、片付け 11 学習の振り返りとまとめ	※ 本時の学習を振り返るに当たっての留意事項を具体的に示す。 ・整理運動、用具を片付ける上での留意点 ・本時のねらいに正対した振り返り、それを受けた評価の仕方、まとめ方についての要点 ・本時の学習の成果と課題を踏まえ、次時の予告や今後の見通し
	※ 各自の学習を振り返る。 ・成果や課題、気付きを発表する ※ 本時の評価をもとに次時の学習への意欲に結び付けよう、教師が振り返りの評価をする。	

**9 資料**……本単元(本時)で使用する学習資料、学習カード等を添付する。